

大てがら どんでん小僧

横笛 太郎・作 石橋 三宣・絵



913.6	よこ	おえ た ろう
	横	笛 太 郎 作
		大てがら どんでん小僧
		太 平 出 版 社 1978
		P 126 22cm

横笛 太郎 よこぶえ たろう 1938年神戸に生まれる。現在、都内各区の児童館の子ども会および幼稚園、保育所で、「おはなし太郎さん」として自作の口演や紙芝居の巡演をつづけている。おもな著書に『とんちのどんでん小僧』『大わらいどんでん小僧』『ほらふきどんでん小僧』（太平出版社）『沖繩むかしあったとき』『ちからもちユンタ』など

大てがら どんでん小僧

母と子の図書室

1978年 6 月30日 第1刷発行

¥960

1982年 5 月10日 第2刷発行

著 者 横 笛 太 郎

発 行 者 崔 容 徳

東京都新宿区弁天町107 石嶋ビル
発行所 株式会社 太 平 出 版 社 ©

電話03-204-1351 振替東京1-99563

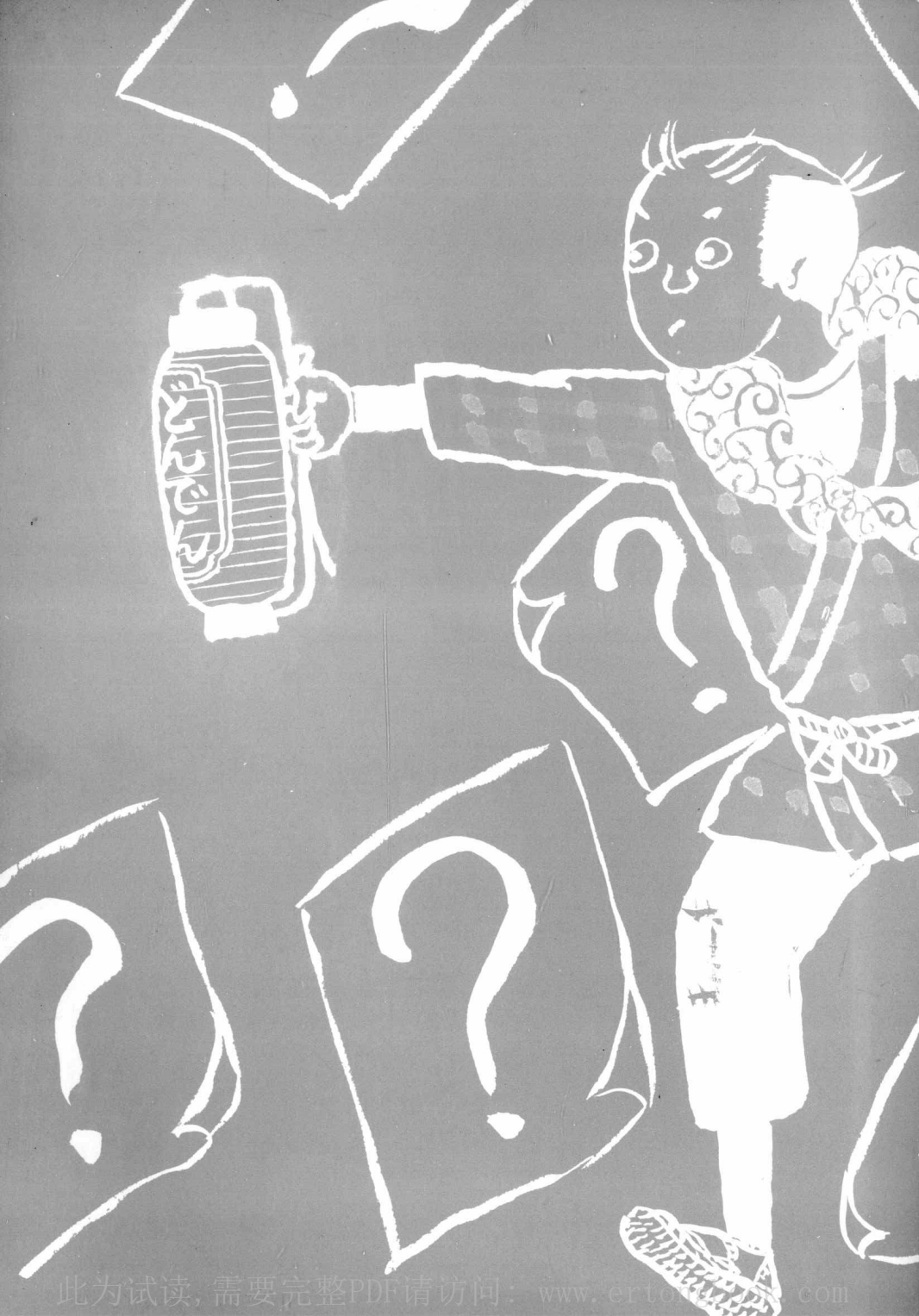
落丁・乱丁本はおとりかえいたします

大てから どんでん小僧

横笛 太郎・作 石橋 三宣・絵







こんでん小僧

横笛 太郎・作 石橋 三宣・絵



日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

もうだめだ……とおもうときが
だめなときだ。

どんな難問^{なんもん}にぶつかっても

どんでん小僧^{こどう}はへこたれない。

ふんばって、がんばってこそ

ほら、また、いいちえがゆいて

ふしぎな事件^{じけん}も、みごと解決^{かいけつ}！



大てがら どんでん小僧 もくじ

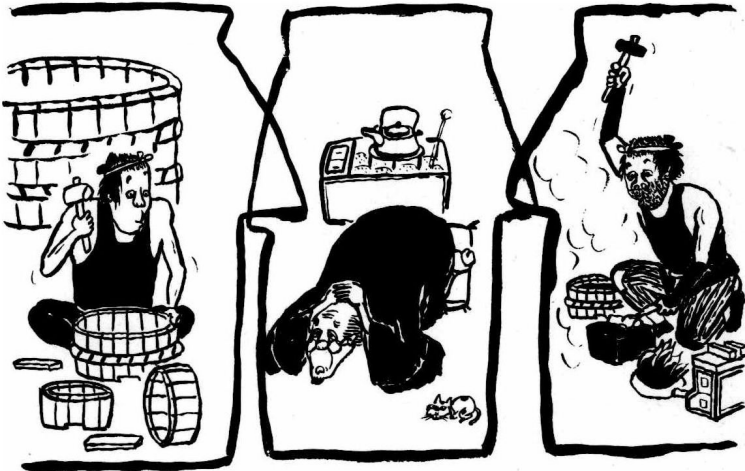
雪野原の^{ゆきの}一けん家^{はら} 12

らくがきの^{はん}犯人^{にん} 18

消^きえたお金 26

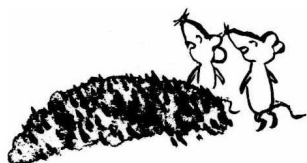
ふたりのハチ 40

かべに残^{のこ}された文字^{もじ} 47





みなさんへ——あとがきにかえて……	121
なぐったのはだれだ……	114
ひっこしさばき……	103
ながいはし……	87
白い証文……	75
もとの金……	68
犬の名まえ……	58



大てから どんでん小僧

横笛 太郎・作 石橋 三宣・絵



雪野原ゆきのはらの一けん家や

雪の日の日ぐれがた。

もう、あたりはくらい。

どんでん小僧こぞうが、ふところ手をしてぶらぶら歩いておると、とおくの野っ原のぼらの上を、ちようちんがひとつ、ふらふらとゆれながら、ゆっくりとすすんでいく。

ちようちんは、野っ原のまん中の一けん家やの中にはいった。しばらくすると、
「わーっ。だれかきてくれえ。ひと殺ころしだー。」

と、さけびながら、ちようちんがとびだしてきた。よっぱどあわてたんだらう。ひ
つくりかえたひょうしに、ちようちんがめらめらともえあがった。

「はて……。何があつたんだらう。」

どんでんは、かけだした。

どんでんが、一けん家のそばにかけつけると、男がひとり立ちすくんでおった。

男は、大工^{だいく}だった。

「どうしたんじゃ。」

「おれがいま、この家にきたら、ばあさまが死^しんでたんじゃ。毎日^{まいにち}、こうして飯^{めし}をはこんでやってるのに……。」

この知らせをきいて、役人^{やくにん}がすっとんできた。いろいろしらべておったが、このばあさまは、もう何時間もまえに、だれかにしめ殺^{ころ}されたようすだという。

「殺されたのは、昼^{ひる}すぎじゃな。」

八の字ひげの役人は、そういった。

その日は、朝から雪がふっておったが、昼まえには、ぴたっとやんで、一尺^{しちく}（約^{やく}三十センチ）ばかりつもっておった。

ばあさまの住^すんでおる一けん家は、雪にとじこめられて、きょうはだあれもきていない。

というのは、雪の上には足あとがひとつもついていないからだ。あるのは、とんとんとん、とついておる大工だいくの足あとだけ。これは、さっき、飯めしをはこんできたときについたものだ。

どんでん小僧こそうと、役人やくじんと、大工は、ばあさまに手をあわせた。

犯人はんじんは、どうやってこの一けん家にはいり、ばあさまを殺ころしたんだろう……？
野の原はらには足あとがないし、みんな、うてをくんだり、くらい天井てんじょうをにらんだりしておった。

そのとき、どんでんが、

「わかったぞ！ 犯人がわかったぞ。」

といいながら、おもてへとびだした。

それっ、というんで、みんなもつづいておもてにとびだした。

「ど、どんでん。どこだ、どこだ。」

役人は、ハの字ひげをつりあげてきいた。

「それーっ。こいつだ。にがすな！」

